

H28 午後 2 問題 2 を評価して

2019/1/20 by koyano

先ず、私が考える、問題文から読み取れる題意と執筆上での留意点を述べます。

設問ア

1. プロジェクトの特徴と目標の達成を阻害するリスク
1. 1 プロジェクトの特徴と目標
 - 特になし
 - 私の立場(PM)もここで述べておく。
 - プロジェクト目標を明確にする。プロジェクト目標の達成を阻害するリスクが話題
1. 2 プロジェクト目標の達成を阻害するリスクにつながる兆候
 - ・メンバーの稼働時間が計画以上に増加している状況
 - ・メンバーが仕様書の記述に対して分かりにくさを表明している状況
 - リスクは一つに絞れ、実行段階で見つかったのだから

設問イ

2. リスクとその予防処置、対応計画 **【具体的に述べる】**
2. 1 顕在化すると考えたリスクとその理由
 - ・生産性が目標に達しないリスクが顕在化
 - ・成果物の品質を確保できないリスクが顕在化
 - リスク登録簿に無かったリスク兆候が発生したとする=未知のリスク
2. 2 リスク分析とリスクへの予防処置
 - (1)リスク分析
 - ・察知して兆候の原因分析、リスクの発生確率や影響度のリスク分析を実施する。
 - 高リスクとすること、予防処置の対象とするために。
 - (2) リスクへの予防処置
 - ・リスクを顕在化させないための予防処置を策定し、実施する。
 - この予防処置は、とにかく顕在化させない軽減戦略だ。
2. 3 リスクの顕在化に備えて策定した対応計画
 - ・リスクの顕在化に備えて、その影響を最小限にとどめるための対応計画を策定する。
 - 残存リスクのコンティンジェンシー計画である。予備費を使うトリガーも設定する。

設問ウ

3. 予防処置の実施状況、評価と改善点 **【具体的に述べる】**
3. 1 リスクへの予防処置の実施状況と評価
 - 特になし
 - 成果があったとする。
3. 2 今後の改善点
 - 特になし
 - しかし反省点もあるので改善する。そして教訓を残せ。

◆当該論文作成時の情報

1. 論文作成は、この準備期間で何回目のトライなのか⇒今回初回。但し、3年前に3本作成経験あり。
2. 論文作成に、何時間掛けたのか⇒2.5時間
3. 論文作成は、⇒手書きで書いてからPC入力

◆この問題はかなり難しい

予防処置と対応計画の違いをどう読み、どう記述するのか。問題文には、

・対応が必要と判断した場合は、リスクを顕在化させないための予防処置を策定し、実施する。

・併せて、リスクの顕在化に備えて、その影響を最小限にとどめるための対応計画を策定する。

とあります。実に違いが分かりにくいですね。

IPAから後日出された採点講評には、後者は「リスクが顕在化したときの対応計画」となっています。

顕在化に備えてと顕在化したときのとは違いますが、とうやらリスク対応戦略の中のコンティンジェンシー計画をIPAは期待しているらしい。

そうして読み返すと、

・予防処置の対応が必要と判断した場合は、の表現は、高リスクなので手を打っておく必要があるリスク対応戦略の中の軽減戦略

・併せて、対応計画のリスクの顕在化に備えて、の表現は、その対応が功を奏さないいわゆる残存リスクになった場合のリスク対応戦略のコンティンジェンシー計画を期待していると読めます。

そうすると、以下のシナリオになります。

リスクを一つ挙げ、分析した結果、それは高リスクなので先ず予防処置をとる。しかし予防処置が功を奏さない場合(残存リスク)に備えて、その対応計画も検討する。

参考に、IPAのプロジェクトマネージャ 平成29年春期 午前Ⅱ 問3にPMBOKガイド 第5版による予防処置と是正処置の問題があります。

ア)あるサブシステムの成果物の品質が、要求されるレベルを満たさないことが予想されるので、設計ドキュメントのレビューに有識者を参加させる。

イ)あるタスクが、プロジェクトマネジメント計画書に記載したスケジュールから遅れたので、遅れを解消させるために要員を追加する。

ア)はリスクの場面で予防処置、イ)は問題発生した場面で是正処置です。

コンティンジェンシー計画は、イ)を事前に計画しておき、起こったらそれを実行することです。

◆総評 **B**

1章1行オーバーしてます。それを考慮しないで評価します。

2.3の対応計画が粗い。それは問題と設問の題意を外しているのと、二つのリスクを挙げたので論述に深みが出なかったためでしょう。

(二つを扱ってもよいのですが、2時間のなかで旨く論ずるのはとても難しいです。)

修正してみてください。

提出論文を **25字×32行の形式**に落としてみました。途中の空行も削除しました。以降のコメントのページと行はこの形式のもので表現しています。

以上

平成28年間2 評価票							2019.1/20	
条件	内容	重み	基準		評価		コメント	備考
条件1	1)設問アの字数制限「800字以内」が守られているか	/	○		○		問題なし【800】	1つでも該当すれば D
	2)設問イの字数制限「800字以上1600字以内」が守られているか		○		○		問題なし【1125】	
	3)設問ウの字数制限「600字以上1200字以内」が守られているか		○		○		問題なし【775】	
条件2	1)設問アを反映している見出しか	2	5	10	5	10	2. 1は長い	
	2)設問イを反映している見出しか	2	5	10	4	8		
	3)設問ウを反映している見出しか	2	5	10	5	10		
条件3	1)ア見出しに合致した内容になっているか	3	5	15	4	12		
	2)イ見出しに合致した内容になっているか	3	5	15	4	12		
	3)ウ見出しに合致した内容になっているか	3	5	15	4	12		
	4)ア問題文で問われている内容になっているか	4	5	20	3	12		
	5)イ問題文で問われている内容になっているか	4	5	20	2	8		
	6)ウ問題文で問われている内容になっているか	4	5	20	4	16		
条件4	読みやすい丁寧な字で記述されているか	1		0		0	pc入力のため	
条件5	PMの立場を明確にしているか	1	5	5	4	4		
条件6	1)結論が先に記述されているので分かりやすいか	1	5	5	3	3		
	2)理由が記述されているので分かりやすい	1	5	5	3	3		
	3)どのようにも取れる曖昧な表現はしていないか	1	5	5	3	3		
	4)設問イ、具体例が記述されているか	2	5	10	3	6		
	5)設問ウ、具体例が記述されているか	2	5	10	4	8		
条件7	1)アの記述量は空行3行以下まで記述されているか	1	5	5	5	5		
	2)イの記述量は最低字数制限の1.2～1.6程度は記述されているか	1	5	5	5	5	(950)<【1125】<(1300)	
	3)ウの記述量は最低字数制限の1.2～1.6程度は記述されているか	1	5	5	5	5	(725)<【775】<(950)	
	4)アイウの各段落の記述量が適切であるか	1	5	5	3	3		
条件8	1)一文が長からず読みやすいか	2	5	10	3	6		
	2)「である」調、句読点の禁則など統一され、最低限の記述スタイルが守られているか	1	5	5	4	4		
	3)修飾部、複文の入れ子構造などを多用せず、気にならないか	1	5	5	4	4		
	4)受け身表現を多用せず、気にならないか	1	5	5	4	4		
条件9	専門的な知識が記述されているか	2	5	10	4	8		
条件10	定量的表現がされているか	1	5	5	4	4	厳密さは問われない	
	合計			235		175		
	評価					74.5%		
				(A:100～77 B:76～60 C:59～45 D:44～0)				

A 先ず、良い個所についてコメントします。

1. 進捗率の数値や「具体的には・・・」の表現で、設問の『具体的に述べよ』を意識しているとアピールできています。
2. PM 専門を使用して表現しようとの意識が感じとれます。
3. 設問ウ、ここは全体的に良く書けています。
ただし後で述べているが、二つはいらないうつでよい。
4. 設問ウ、3.2 節 最後パラグラフ「私は上記 2 点について・・・へ指示を行った。」
⇒教訓として残っていてよい終わり方です。

B 次に、マイナス要素の強い個所についてコメントします。

1. 設問ア、イ、ウ、リスクは一つに絞ったほうが良い
⇒本論文では、1.2 ,2.1 , 2.2 ,2.3 ,3.1 で 2 つリスクを挙げ、分析し、対策を述べています。
その為、短時間で二つを旨く論述することが難しくなったなど感じます。
リスクは一つに絞ったほうが良い。
2. 設問イ、2.3 項
⇒予防処置の工夫点の様に読めてしまいます。また実行したとの表現はいけません。ここは残存リスクのコンティンジェンシー計画を述べて欲しい。計画だけで実行していません。

C 最後に、チョットした表現でよくなる個所についてコメントします。

1. 設問ア、1 ページ目の 5 行目の「プロジェクトの概要は、」
⇒この言い回し要らない。プロジェクトの特徴を述べる節なので紛らわしい。
2. 設問ア、1. 1 プロジェクトの特徴
⇒設問にプロジェクト目標の達成を阻害する・・・とあります。やはり目標は書いておきたい。例えば、
「本プロジェクトの特徴は納期厳守である、それはプロジェクトの制約条件かつ目標でもある・・・」
3. 設問ア、1 ページ目の 16～21 行目の(2)のパラグラフ
⇒プロジェクトの特徴の中で述べていますが、これはプロジェクトの目的ですね。なので、

5 行目の「・・・移行を行うプロジェクトであった。」の後ろへ移すのが適切です。もちろん項番(2)は不要です。そうすると項番(1)も不要になります。

4. 設問ア、1 ページ目の 10 行目の「プロジェクトの特徴は以下である。」

⇒この前で改行したい。何故ならば、問われているのは特徴でそれを際立たせるため。

5. 設問ア、1 ページ目の 1.2

⇒(1)簡単に書き過ぎ。多分、外部設計書の作成あたりで工程の 1/4 ぐらいだと想像するが、このように試験官に想像させるのは説明が足りないということ。また(全メンバー?)大幅に超過となると、兆候とは言えない。

例えば、

『未だ工程の 1/4 の外部設計書フェーズなのに、一部のプロジェクトメンバーの稼働時間が週 60 時間と上限の 45 時間を超過しだした。』

6. 設問イ、2.1 の(2) 「外部設計書の作成・・・なるリスクがあると考えた。(162 字)」

⇒一文が長すぎ。なぜなら、読み手は一読で理解したいが二読になる、後で修正が入ると書き直しが大変、などなど。3 行以内(75 字)としたい。他にも幾つかあります。

以上